

第1回 有明アーバンスポーツパーク整備運営事業 審査委員会 議事要旨

1 開催日時

令和5年2月13日午後6時から午後7時まで

2 開催場所

オンライン会議

3 議事

- (1) 提案審査の流れについて
- (2) 評価ポイントについて
- (3) プレゼンテーションにおける質問事項について

4 内容

(1) 委員長の選任

委員の互選により委員長の選任を行った。

(2) 事務局からの報告

提案書の提出があった応募グループ（2グループ）について、提案書類形式の審査及び提案内容基礎審査における必要事項を充足していることについて報告があった。

(3) 議事

ア 提案審査の流れについて説明

事務局から、審査の流れについて説明があった。

イ 評価のポイントについて説明

事務局から、有明アーバンスポーツパークのコンセプト、選定基準について説明があった。

ウ プレゼンテーションにおける質問事項について

第2回審査委員会のプレゼンテーションにおける質問事項について検討を行った。委員からは、以下の意見があった。

- ・両グループともパリ2024大会直後の施設竣工予定となっている。パリ2024大会で日本選手が活躍した場合など、パリ2024大会と連動し、その機運をどのように取り込むのか確認したい。
- ・駐車場・駐輪場の整備規模がグループ間で異なるので、駐車場等設置の考え方など確認したい。

(4) 連絡事項

事務局から、第2回審査委員会の開催等についての案内があった。

第2回 有明アーバンスポーツパーク整備運営事業 審査委員会 議事要旨

1 開催日時

令和5年2月22日午後5時から午後9時まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎 19階 19E会議室及びオンライン

3 議事

(1) プレゼンテーション及びヒアリングの事前説明

(2) 提案内容加点審査及び候補者の選定

4 内容

(1) プレゼンテーション及びヒアリングの事前説明

事務局から、プレゼンテーション及びヒアリングの進行について説明があった。

(2) 提案内容加点審査及び候補者の選定

ア プレゼンテーション及びヒアリング

赤グループ、青グループについて、それぞれプレゼンテーション及びヒアリングを行った。

イ 提案内容加点審査及び候補者の選定

(ア) 審査に関する意見交換

審査に関する意見交換において、委員からは、以下の意見があった。

- ・赤グループは、サッカー場を中心にステレオタイプなスポーツ施設に偏っている。
- ・青グループは、アーバンスポーツの定義を大きく捉えすぎている印象はあるものの、周辺地域の利用属性に配慮して、アーバンスポーツの入り口として広いスポーツを提供するという方向性は理解ができる。
- ・両グループの提案も、東京2020大会が終わった直後なので、アーバンスポーツをさらに強調して欲しいという思いもあるが、10年間という長期の事業期間を見据えると、地域住民の憩いの場とすることも、穏当な提案である。
- ・赤グループは、サッカーコートイメージが強く、アーバンスポーツをどうするのかが見えなかった。収益を確保することに引っ張られたような事業内容という印象を受けた。
- ・赤グループは、雨天時に利用できない施設があることや、照明の問題も含めて、近隣への配慮があまりなかったように感じた。
- ・青グループは、アーバンスポーツを3種目（スケートボード、スポーツクライミング、3x3 バasketボール）以外にも取り入れて欲しかったが、3x3 バasketボールに屋根を追加整備するなどの一定の提案がなされていた。
- ・青グループのスポーツウェルネスのまちづくりというコンセプトは、東京都の目指している健康なまちづくりと親和性がある。
- ・赤グループは、周辺住民からの声をネガティブに捉えているところがあり、住宅がある中に入っていくため、そのような捉え方では、事業運営が厳しくなっ

てしまうのではないか。

- ・青グループは、これまで周辺の住宅開発を手がけている立場であり近隣対応への覚悟が感じられた。地域のまちづくりという観点からは、周辺住民に受け入れられる施設になるだろう。また、スポーツ以外でも収益を上げて、多くの人々に活用されることが目指せるのではないか。
- ・赤グループは、サッカーとフットサルを中心とした施設なので、本当に地域の利用を想定しているのか疑問が残った。また、現地を視察した際に、飲食や物販などの憩いのスペースの不足を感じたが、それに応える提案がなかった。
- ・青グループは、特に地域の子育て世代をターゲットとした施設を整備・運営するということに対して、リスクをとって投資をしているというところは評価できる。
- ・どちらのグループが選定されたとしても、アーバンスポーツの拠点性や特性をPRできる運営をしていただきたいということは、審査講評で伝える必要がある。
- ・赤グループは、地域のサッカーチームやバスケットボールチームの利用を呼び込むのはよいが、アーバンスポーツと離れている部分があり、本当にどこまでアーバンスポーツのことを考えているのか不安に思う。
- ・青グループは、ランニングスタジアムなどをきっかけに本施設を訪れた人に対して、どのようにアーバンスポーツに誘引するのかが大事になる。

(イ) 候補者の選定

各委員が提案内容加点審査を行い、評価点を算出した。

審査の結果、評価点が最も高い青グループを候補者として選定し、赤グループは、採用採点基準を満たさなかったため、次点候補者はなしとした。

(ウ) 利益相反関係の確認

審査委員の評価が終了した後、応募グループの企業名を開示し、応募グループと各委員の利益相反関係を確認したところ、該当する委員はいなかった。

(エ) 審査講評（案）の検討

審査講評作成に向け、提案内容加点審査における各委員の評価内容について、意見交換を行った。委員からは、以下の意見があった。

- ・アーバンスポーツの定義について、東京都のコンセプトを踏まえて、再認識をしてほしい。
- ・構成企業への運営委託費の支払条件を明確化するとともに、透明性の高い財務報告を行い、都に対して確実なプロフィットシェアを実施していただきたい。
- ・臨海地域の災害機能の向上に資するような取組について、都や地域と連携して推進していただきたい。
- ・地域との良好な関係を築くために、地域の声に寄り添った運営をしていただきたい。